



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティを築く



waterras.com

WATERRAS COMMON

FREE AWAJI BOOK 8890

フリーアワジブック8890
2018.09.01発行

発行：一般社団法人 淡路エコマネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105 グラナスタウンズ1311
Tel.03-5526-8883 Fax.03-5526-0090 www.waterras.com



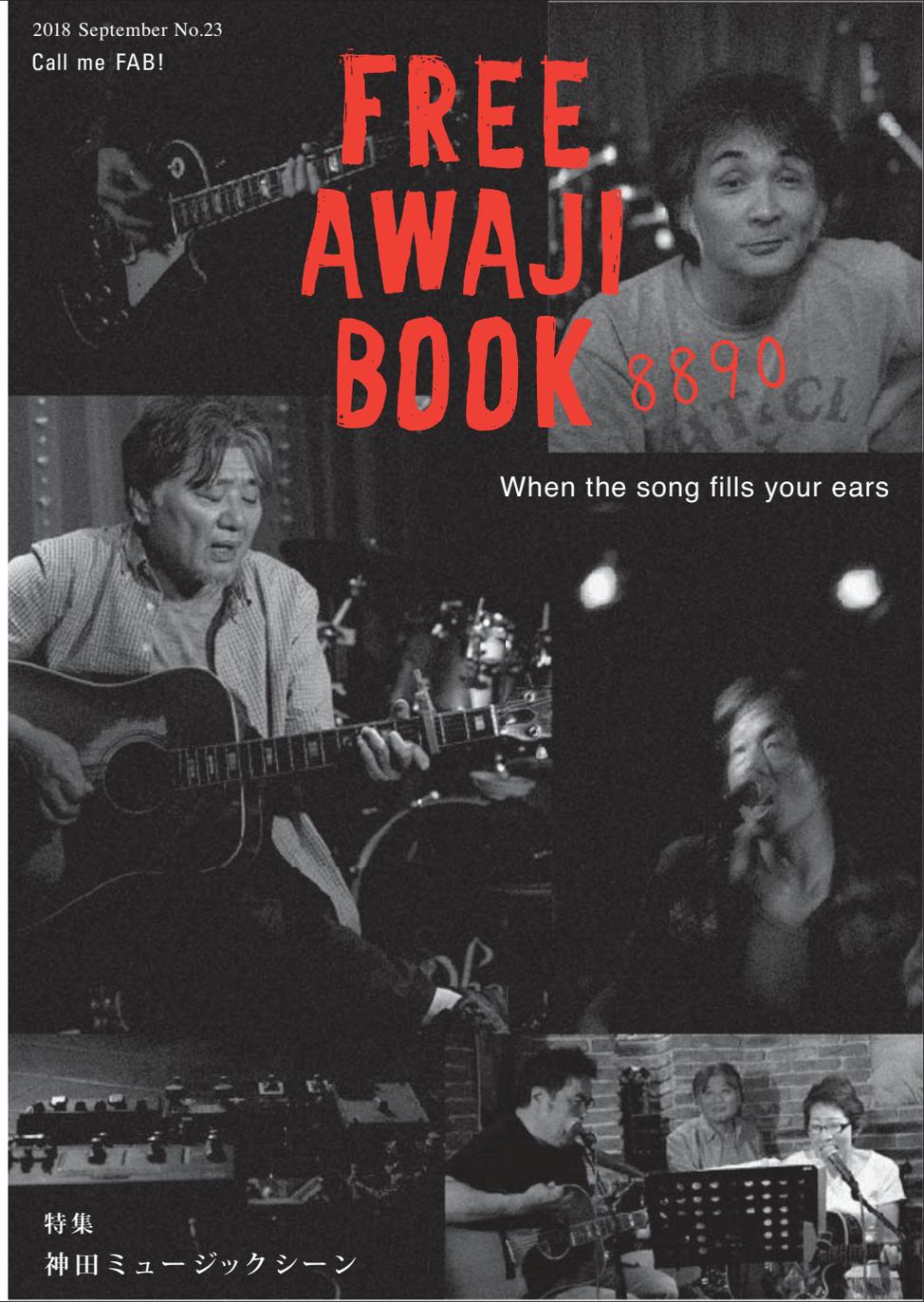
編集：グッドモーニング株式会社 水代 優
www.goodmornings.co.jp

¥0

2018 September No.23
Call me FAB!

FREE AWAJI BOOK 8890

When the song fills your ears



特集
神田ミュージックシーン



抹茶の苦みがクセになる。

抹茶ビール® 抹茶ワイン



9/29(土)まで抹茶ビアガーデンやってます! /

RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU
101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-4
TEL 03-3251-1150 <http://www.1899.jp/ochanomizu/>

Text Daisuke Furuya
Photo Chie Maruyama



歌い継がれる名曲と、才能が芽吹く新曲が、
今宵もまた鳴り響く。
ようこそ、神田ミュージックシーンへ。

When the song fills your ears

在りし日のフォークの歌も魂も、 この酒場が覚えている

夜の神田駅北口、ネオンのきらびやかな街角のとあるビルの地下1階。店の前に立つとおぼろげながら聴こえる賑やかな音。ドアを開けた瞬間にそれははっきりとした輪郭を帯びて耳に届く。あの昔懐かしいフレーズ、客席からの手拍子、それに心底楽しそうな語らいの声も。一曲終わるたびに、温かい拍手の音が鳴り響く。

街並みにも通りを行く人の姿にも、昭和の残り香が漂う界隈に店を構える「FOLK 酒場 昭和」。ここで夜な夜な繰り広げられる光景は、マスターの原田茂さんがかつて15年前に夢想した「こんなオヤジたちの遊び場があったらいいよな」がまさに現実になったもの。「いくら自分が望んでそういう場を作ったとしても、

その気持ちに応えてくれるお客さんがいないと成立しないわけで。周囲からは当初反対もされたんだけど、その時の『やるぞ』っていう勢いを大事にして、作ってみたわけ。そして今、こうして仲間とともにかけがえのない時間を過ごしている。



ただいま、ユーミンの「真夏の夜の夢」を、即席バンドで演奏中!!



全員参加型の「FOLK 酒場 昭和」では、ライブハウスとはまたひと味違った一体感が店内に生まれる。

When the song fills your ears



本職は内装業という原田さんは、自らで店内の理想的な音響を実現。



ミラーボールがよく似合う3階の貸切専用部屋。

皆一様に貧しくも懸命に生きていた、あの頃。来たるべき理想の社会を切り拓かんと学生運動に進出する勇氣にも、若かりし日ならではの淡い恋心にも、歌はいつも寄り添ってくれた。数十年を経てある時、忘れ物を取り戻すかのように「錆びついたギターを再び手に取りたいくなるんだよね、やっぱり」。

フォークを中心に据えつつ、演歌を除けばどんな曲でもチャレンジできるという懐の広さも魅力。男女問わず様々な大人がふらりやって来て、歌はもちろん、ギターやその他楽器を楽しんでいく。ルールは「入店順に一人2曲ずつ」。その日の空き次第では順繰りに2周目、3周目も期待できる。それまでホール

でドリンクを用意していたスタッフが、いつの間にかお客さんのサポートでギターなりベースなりを弾き始める身軽さにも、皆がフラットに楽しむ場であるのが伺える。歌いたい曲の譜面を持ち寄り、せーの、で始める演奏者同士のほどよいリラックス感がまたよい。原田さんがギターやドラムを担当することも。

ちなみに広々とした貸切専用の部屋が別途3階にあり、15人以上で利用が可能。気心の知れたもの同士、また異なるムードのものでパーティータイムを楽しむのもよさそう。「一曲歌い終えた後の酒ってうまいし、それで気持ちよく家に帰ることができる。いいことだよな。今日もまた、歌に酔いしれる神田の夜を。」

FOLK 酒場 昭和 千代田区内神田3-22-10 ハチヤビルB1F・3F

☎ 03-3253-7970 ㊟ 18:00~23:30 ㊟ 日・祝

聴くもよし・演るもよし。

名うてのドラマーが手がける充実の音楽空間



この日のトップバッターは四人編成バンド「SPEAK EASY」。
ここでの演奏は今回が2回目なのだとか。

日が暮れ、街に夜が訪れた土曜の午後7時過ぎ。ドラマーのカウントの後、すぐさま飛び出す強烈なリフで曲が始まる。歌の途中で時おり飛び出すシャウトからも、痛みを覚えるような表情と共に紡がれるギターのフレーズからも、熱いロック魂が伝わってくる。こうして今日も「THE SHOJIMARU」の夜が幕を開ける。

このライブスペースは、「MOJO CLUB」の一員として、また過去には「タイマーズ」の一員として伝説的なライブ演奏を繰り広げたことで知られるドラマー・杉山章二丸氏が立ち上げた空間。2年前のオープン以来、率先してお店づくりに励み・楽しむ頼もしいスタッフ達と共に、このお店を運営する日々を送っている。

When the song fills your ears

「お店を開くにあたり、当初は吉祥寺や下北沢を考えていたけど、この場所に来てみて、直感的に、これはいいなあと考えたよ。実際、有名な豆腐屋さんのおじさんも遊びに来てくれたり、そんな古き良き下町的な雰囲気も併せ持っているし」。実はあの泉谷しげる氏も「大好きな街・神田にとってもいいライブハウスができた！」と喜び勇んで店に連絡してきて、以降これまでに4回もライブ演奏を重ねてきている（それも杉山氏本人のドラムと共に!）。

良質な生の音楽に触れられる充実のライブ空間が、こうしてこの街に根を張った。ここから世間を驚かすような才能が羽ばたく日も、もう間もなくのはず。また、ここでは明かせないが、近い将来、また別の有名アーティストがプロデュースするコンサートホールがこの街にできる予定もあるとのこと。音楽的胎動が確かに聴こえる今の神田から、決して目を離してはいけない。



神田須田町の一角、地下1階に佇む「THE SHOJIMARU」。



各種楽器はレンタル可能なので、手ぶらで来てライブ出演可能！



杉山さん自身による演奏を聴けるのも魅力。オーナーの出番が待ち遠しい！



プロからアマチュアまで、多様なバンドが出演する。

THE SHOJIMARU

千代田区神田須田町1-4-6 吉川ビル B1F

☎ 03-6206-9596 ㊟ 11:00~23:00 ㊟ 日・祝

HANG OUT MAP

ぶらぶらマップ

illustration Mougji Kazuya

A 9月22日(土)～10月14日(日)

池田晶紀 Portrait Project 2012-2018
「いなせな東京」

写真家・池田晶紀氏が2012年から現在までに撮影した100人を超える千代田の人々のポートレート約120点を一堂に展示。まちを愛し、支える人たちの素顔や意外な表情に出会えるかも。



小高愛花 / 神田まつや
2013年 ©Masanori Ikeda

・時間 11:00～20:00
・会場 1Fメインギャラリー
(アーツ千代田 3331)

3331 ART FAIR recommended artists #035

井田大介 個展「Photo Sculpture」

3331 ART FAIR 2018 でレコメンドアーティストに選出された若手作家による個展。現代の拡張し続ける身体感覚を視覚化し、「オリジナルとコピー」「イメージとリアリズム」の関係性や現代における「本物＝オリジナル」を作家独自の手法を通して問いかける。

・時間 11:00～20:00 ・会場 1F 3331 Gallery (アーツ千代田 3331)

WHY Tokyo Biennale?

東京ビエンナーレ 2020 構想展

アーティストや建築家、キュレーター、コミュニティ・デザイナーなどクリエィティブに時代を切り開くディレクター陣が、「東京ビエンナーレ2020」開催に向けて、その斬新な構想を展覧会形式で紹介する。

・時間 11:00～20:00
・会場 1F メインギャラリー (アーツ千代田 3331)

● 楽器カフェ ● ロックオンキング

C 6月23日(土)～10月31日(水) ZEDZ 「TEMPO by ZEDZ」

※展示期間中、貸切日がございます。cafe104.5 ホームページにてご確認ください。

都市の「テンポ」をテーマとした新作の壁画を中心に、紙を用いたコラージュ作品と、これらの新作の前身となったシルクスクリーン作品を展示。ポスト・グラフィティーションの第一人者による、都市の空間的なレイヤーと時間的なリズム、俯瞰的で建築的なグラフィックを楽しむ。

・場所 ワテラスタワー 2F cafe104.5



B 9月彼岸 将門塚例祭
9月23日(日) 祖霊社秋季例祭
11月15日(木) 七五三詣祝祭
11月26日(月) 新嘗祭(秋大祭)
・場所 神田明神境内、神田明神ご社殿

*店は編集部が独自にセレクトしました。

AAM × TGMP

淡路エリアマネジメント

×

Tokyo Good Manners Project

キックオフ対談！

— 続編 —

“TOKYO GOOD”の文化を、東京から世界に向けて発信していく Tokyo Good Manners Project (以下 TGMP)。その活動は、淡路エリアマネジメント(以下 AAM)の先進的なまちづくりにも共通します。今後さまざまなまちで連携していく AAM × TGMPのキックオフとして、「かんだやぶそば」4代目にしてAAM理事の堀田康彦さんと、TGMP理事の水代優さんのお二人が今回も「神田のまち人とマナー」をめぐる対談をします。



水代: 東京という街の特徴を考えてみたとき、そのひとつとして、災害に遭うことが少なくなっている街である、ということが言えると思います。明暦の大火とか関東大震災とか、歴史を避れば大きな地震や火事に度々見舞われてきたわけですが、そんな苦難の時にこそ発揮されるこの街らしさもあるのではないのでしょうか。というのも、5年前に火災に遭われたにもかかわらず、今またこうして「かんだやぶそば」がバージョンアップした姿で営業を続けているという一連のストーリーは、地域の方はじめ、ひいきのお客さんたちの強い熱意があってこそのことだったと思います。

堀田: それについてはひとつ、印象的なエピソードがあります。消火活動にあたった消防の方から事後に聞いたことなんです、火災が発生していたまさにそのとき「危ないですから、みなさん避難を！」というスタッフの呼びかけの中、わざわざ食事された分のお代をテーブルに置いてから、外へ逃げたお客さんがいたというんです。

水代: それは驚きです...! 緊急事態の中でとっさにそんなことができるなんて、ちょっとやそっとの思い入れではできないはず。お店がいかに愛されていたかわかる象徴的なお話ですね。

堀田: 恐れ多くも、そういった素晴らしいお客さんに恵まれているのだから、その気持ちに応えられるお店を、ということで、再生にあたっては検討に検討を重ね店舗の設計をしました。その際にベースとして大事にしていたのは、ハード面だけでなく、「まちの空気」を良いものにしたい、という思いでした。

AAM 理事 堀田 康彦

明治13年創業「かんだやぶそば」の4代目主人。一般社団法人淡路エリアマネジメント理事として、新旧あらゆる要素が調和した、魅力ある神田淡路町のまちづくりに取り組んでいる。

水代: 「まちづくり」といった時に、ついついハードばかりが目がいってしまうために見落とされがちですが、でも本当はとても大切にしなければならぬ部分ですよね。現代では、例えば都会のマンションなどでは住民が見知らぬ者同士で、親が子どもに「知らない人に挨拶しちゃういけないよ」なんて教育することも珍しくない。他人との繋がりを疎ましく思う気持ちは、もはやそんなところまで行き着いてしまっているのか、という印象を受けることがあります。

堀田: 世の中が便利になり、人に頼らなくても済むことが増えてきたがために、人付き合いが減り、結果、他人が介介入らざる、あるいはできない状態ができてしまっているというのは憂うべきことですね。江戸時代に職人が住み着いた街らしく、神田では「それをやるなら、あいつが得意だから聞いてごらん」なんて、互いの顔が見えるからこそそのやりとりが日々あるんです。そんな、いわば「ほどよい“おせっかい”」はこれからも大切にしていきたいです。

水代: ワテラスに代表される淡路町の再開発を通じて、今やここにはニューカマーの方もたくさんいるわけですが、堀田さんをはじめ古参の方々は、誰に対してもとてもオープンに接している様子が印象的で、ともすれば「これがこの街に古くから伝わるやり方だからよろしく」なんていう風に、ひたすら新参者の側に適応を求め、というのがありがちなケースだと思うんですけども。

堀田: 合理的に考えれば、古参の方こそ、そのコミュニティに関わっている度合いが大きい分、そこから受けている恩恵もまた大きいわけでは

TGMP 理事 水代 優

good mornings株式会社 代表取締役。都内・地方を問わず、数々の飲食店やコミュニティスペースのプロデュースを手がけながら、それらを基点に、全国各地のまちづくりに携わっている。

し、いい状態を保ち続けるためには、やはり新陳代謝も良好であることが必要なんです。ある意味「嫌なら出てしまえばいい」というニューカマーの方を積極的に取り込み、新しい持ち味や生活文化を加えていくことで街はシュリンクせず、継続的に発展できる、と。

水代: 人情や情緒といった本来の持ち味を核に、古きも新しきもごく自然に融合していく淡路町は、本当に示唆に富んだ街だと思います。東京ならではのマナーを共に作っていくために、これからもよろしくお願いします！

Tokyo Good Manners Project

Tokyo Good Manners Projectとは？

“TOKYO GOOD”の文化を東京で暮らす一人ひとりが誇りを持ち、東京から世界に向けて発信していくことで、都民および東京を訪れる観光客のマナーの認知／向上を図り、国際都市としての魅力向上につなげていくプロジェクトです。



「ワテラスの夏祭り 2018」ワークショップ開催レポート

ワテラスチューデントハウスに暮らす学生が、神田周辺の魅力を内外に発信するコーナー。今回は、「ワテラスの夏祭り 2018」でワークショップの企画運営を担当した大学生、大森叶子さんによる体験レポートです。

子どもたちに寄り添って、丁寧にうちわ作りを教える大森叶子さん。



大人にとっては懐かしの「消しピン」も、今の子どもたちにとっては新鮮な遊び！



ワテラスコモン の1階では、理科の実験のように楽しめる、せっけん作り体験を開催。

夏休みと聞いて思い出すものはなんだろうか。両親の実家の田舎の風景？花火大会？私は、小さい時に行ったお祭りである。人ごみと陽気な音楽に非日常を味わい、ぬるい風を受けながら、夏をしみじみ感じていたのを覚えている。

今回私たちは、「ワテラスの夏祭り 2018」のワークショップの企画運営を任せてもらうことになった。小さな時に楽しかったお祭りの思い出を、ぜ

ひ今の子どもたちにも味わってほしい。そんな思いで企画運営に携わった。今回企画したのは、昔ワテラスは淡路小学校だったということを踏まえて、学校をテーマにしたものだった。授業風にしようと、図工の授業に模した「うちわ作り」、理科の授業に模した「せっけん作り」を企画。「休み時間」企画としては、私たち大学生が小学校の時に流行った、「消しピン」を大会形式で開催した。

Text ワテラスチューデントハウス 大森叶子 (慶應義塾大学 看護医療学部 4年)

Photo Chie Maruyama

SPEAK OUT!



ワークショップのコンセプトは「1日限定小学校」。



今年の「ワテラスの夏祭り」は福島県いわき市、スパリゾートハワイアンズとの共催。フラガールも登場！

当日は最高気温38度の猛暑にもかかわらず、私たちのブースを訪れる子どもが絶えることはなかった。子どもたちの底なしの体力には圧倒させられたが、うちわ作り、消しピン大会、せっけん作りという枠にとらわれず、自ら遊びを見つけて楽しむ子どもたちに、私の心はワクワクし続けていた。企画運営の立場ではなく、子どもたちと一緒に楽しみ企画を成功させたこの思い出は、普段行っているボランティアも、町内会の方々と一緒に楽しむことが一番大切なだと教えてくれたのだ。

企画運営の立場だから、ボランティアだからと立場を気にして行動するよりも、一緒に楽しむ。これが何よりも大切で、よりよい地域貢献につながると思った。私にとってはもう残り少ないワテラス生活ではあるが、まだまだ楽しんでいきたい。

スチューデントハウスの学生たちが「神田八町会子ども縁日」にも参加！



7月21日に、神田児童公園と千代田小通りで開催された「神田八町会子ども縁日」。親子連れの地域の人々で賑わうこの縁日にも、スチューデントハウスの学生たちが参加！神田八町会の皆さんと親睦を深めながら、各町会の屋台で販売を担当したり、ごみの分別・清掃に従事したりと、大活躍してくれました。

WE ARE AAM!

優れた音楽芸術を、このまちから。
「ちよだ芸術祭2018」に注目!



5人のオペラ歌手とピアノ伴奏者が、ワテラスコモンホールに集結！左から3番目が志田雄啓さん。

歴史豊かな千代田のまちにふさわしい、一級の音楽芸術を。この秋「ちよだ芸術祭2018」が、地域生え抜きの声楽家・志田雄啓(たけひろ)さんをプロデューサーに迎え、10月に開催されます。

須田町に生まれ、淡路小学校と鎌成中学校で学んだという、生粋の神田っ子である志田さん。東京藝術大学で博士号を取得、日本音楽コンクール声楽部門第1位など幾多の輝かしい実績を誇る彼にとって、この機会は地元・千代田区への恩返しも兼ねたイベントと言えます。

去る7月には、志田さんの懐かしの学び舎

である淡路小学校の跡地に建てられたワテラスで、この芸術祭のオープニングイベントの数々を開催(右ページ参照)。志田さんら芸術家たちと地域住民との、それに住民と住民同士の、音楽を通じ心ふれあう素敵な機会となりました。来たる10月のイベントへの期待も高まるばかりです!

・本公演 情報

日程：10月13日(土)
会場：区民ホール(千代田区役所1階)
入場無料(カンパ制)、整理券配布
公式HP：<http://chiyoda-artfes.com>

オープニングオペラコンサート

志田さんを中心にテノール4名、バリトン1名、計5名のオペラ歌手がピアノ伴奏と共に、オペラの名曲から『宇宙戦艦ヤマト』のテーマ曲まで、パリエーション豊かな歌の数々を披露。最後にはオーディエンスも交えた「ふるさと」の合唱も。ワテラスコモンホール全体に響き渡った幾多の声の重なり合いから、確かな地域愛が感じ取れました。



発声講座

～美しい声で「ふるさと」を歌ってみよう!～

普段から声楽に親しむ人も多数集まる中、志田さんが準備運動から口やのどの使い方、息つぎのタイミングに至るまで、多岐に渡る声楽のテクニックを、楽しくわかりやすく実演。歌唱時の呼吸に伴う体幹の変化を、志田さんの体にじかに触れて感じるなど、楽器としての声づくりを学ぶことができる、またとない有益な機会でした。



親子で楽しむ声楽体験教室

～近くで聴いて、一緒に歌おう!～

子ども達を迎え、時に寄り添い、時におどけながら、志田さんが歌ってくれる声楽体験教室。迫力と包容力が共存する志田さんの声に導かれ、子どもたちは自然とオペラの世界へと引き込まれているようでした。『となりのトトロ』の主題歌「さんぽ」では待ってましたとばかりに、子ども達も一緒になって無邪気に歌う一幕も。



AAM[一般社団法人淡路エリアマネジメント]では賛助会員を募集しております!
会員特典当誌Free Awaji Bookをご送付。当誌を含む情報発信媒体へ会員様名を掲載。

- ・その他の詳細はこちらから
www.waterras.com/awaji_am.html
- ・登録・お問い合わせ
www.waterras.com/contact



新しいコミュニティ作りへキックオフ!

